

としかんくん

No.145
ふゆ号

セルフ貸出機を使ってみよう!

みなさんは、図書館にセルフ貸出機があることを知っていますか？セルフ貸出機は、自分で借りたい本の貸出をすることができるよ。どんなふうにするのか見てみよう！

1



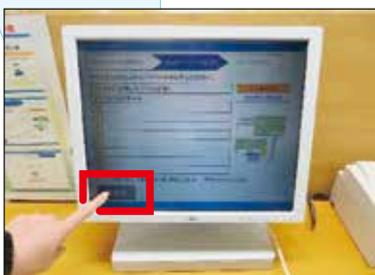
必要なものは、貸出カードと借りたい本。
まず、バーコードリーダーで貸出カードのバーコードを読み取ります。すると、パソコンの画面に自分のカード番号が表示されるよ。

2



次に、借りたい本のうら表紙にあるバーコードを読み取ります。すると本のタイトルがパソコンの画面に表示されるよ。※あせらず、ゆっくり読み取りしてね。

3



借りたい本を全部読み取ることができたら、パソコンの画面の「おわり」の表示をおしてね。すると、レシートが出てくるよ。レシートには、自分が借りたい本の名前と、返却日を書いてあるよ。これで、貸出かんりよう!

★★★ セルフ貸出機を使うときの注意!! ★★★

※ CD、DVDの貸出はできません。

※ 予約資料の受け取りや、続けて借りる延長の手続きはできません。

近くの図書館で、みなさんも気軽に使ってみてね!!



とくしゅう 特集 「星と星座」

ふゆ くうき す ひ おお は ひ ゆうがた ほし み
冬は空気が澄んでいる日が多いので、晴れた日の夕方などに星が見えることがありますよね。
ふゆ だいさんかく ざい せいざ み よ そと で とし そら み あ
冬の大三角やオリオン座など、星座の見つけかたを読んで、外に出た時に空を見上げてみませんか。
せいざ ものがたり ほん
星座にまつわる物語の本もしょうかいします。



『黒い太陽のおはなし 日食の科学と神話』
寮 美千子／文 佐竹 美保／絵
黒田 武彦／天文監修 小学館 (444リ)

わたしたちのいる地球は、太陽のまわりをまわっています。そして月は、地球のまわりをまわっています。太陽と月と地球が一直線に並ぶとき、太陽が月のむこうにかくれて、日食という現象が起こります。今年、3月9日に全国で部分日食が見られるそうです。日食を見るときは必ずおうちの人といっしょに、日食グラスを通して見てね。



『天体観測の達人』
鶴浜 義治／著 PHP研究所 (442ツ)

星座を見つけようとして夜空を見上げて、なかなかうまく見つけられないときは、この本の出番です。本を横に持って上下に開くと、上のページが夜空の写真になっているので、星を見つけやすくなります。目印になる明るい星を見つけたら、本を参考にして星と星を線で結び、図にしてみよう。ほら、夜空に星座が見えてきませんか。



『教えて！21世紀星空探検隊7 流星・隕石』
藤井 旭／著 偕成社 (440フ)

みなさんは、流れ星を見たことがありますか。流星ともよばれていますが、夜空にかがやいている星が流れるわけではありません。その正体は、宇宙をただよう小さなちりのような天体です。

この小さな天体が、もうスピードで地球の大気の中に飛び込んで光るもの、それが流れ星なのです。

ところで、毎年夏休みのころに出現するペルセウス流星群は、今年も8月12日から13日ごろにたくさん見ることができそうです。流れ星が消えないうちに3回願いごとをとねえと、願いがかなうという言い伝えもあります。流れ星が見えたら、ためしてみては!?



『ギリシア・ローマ神話』ブルフィンチ／作
野上 弥生子／訳 岩波書店 (164ブ)

昔の人は、星空を見上げてさまざまな物語を作り出してきました。この本には、羽の生えたくつをはいて怪物とたたかったペルセウスや、なかよしのふたごのおはなしなど、星座のもとになった神話がたくさんのっています。お話を読んでから夜空を見ると、いつもの星が違って見えるかもしれませんよ。



『星の王子さま』サン＝テグジュペリ／作
内藤 濯／訳 岩波書店 (953サ)

「さばくが美しいのは、どこかに井戸をかくしているからだよ」「家でも星でもさばくでも、その美しいところは目に見えないのさ」…。フランスの作家、サン＝テグジュペリの書いた『星の王子さま』は、さばくに不時着した飛行機乗りが、小さい星から来たという王子さまと出会うお話です。やさしい文章で書かれていますが、本当に大切なものとは何なのかを教えてくれる、心に残る物語です。

こんかい とくしゅう ほし せいざ
今回は、特集「星と星座」
にちなんだクイズだよ！

としよかんくんクイズ

- 冬の夜空で一番明るい星は、なんという名前によばれているでしょうか。
 - シリウス
 - オリオン
 - アンドロメダ
- 日食がおこるしくみで、正しいのは次のうちどれでしょうか。
 - 太陽が月とかさなって見える
 - 月が地球のかけになる
 - 地球と月が近くなる
- ブラックホールについて、正しいのは次のうちどれでしょうか。
 - 太陽のように、光かがやく場所
 - 強い重力で空間がねじまがっている場所
 - 星の材料になるガスやチリが集まっている場所

ほかにもこんな本があります

- 『星と星座をみつけよう』森 雅之／著 誠文堂新光社 (443モ)
- 『星空のかがく』えびな みつる／絵と文 中西 昭雄／写真 旬報社 (440エ)
- 『地球が回っているって、ほんとう？ 小学生のやさしい天文学』
布施 哲治／著 くもん出版 (448フ)
- 『ここまでわかった！太陽系のなぞ』沼澤 茂美／著 わきや 奈々代／著 誠文堂新光社 (444ヌ)
- 『星と星座の伝説 冬』瀬川 昌男／著 小峰書店 (443セ)

※()の中の数字やカタカナは、図書館での本の場所をあらわしています。

参考文献：『星の一生』あかね書房
『黒い太陽のおはなし』小学館
『星と星座をみつけよう』誠文堂新光社

ながおかむかしむかし

人物シリーズ⑱

くわばらきゅうえもん
桑原久右衛門

はる く 桜の花びらでピンクにそまる福島江のゆたかな流れ。
 この福島江は、いつ、どのようにしてできたのでしょうか。
 いま 400年くらい前の長岡では、毎年のように水不足が起きました。
 桑原久右衛門は、用水路をつくれれば苦しむ人びとを助けられると考えました。そこで、自分でお金を出して工事を始めます。反対する人に
 じゃまをされたり、命をねらわれたりしたこともありましたが、それでも、
 久右衛門のゆうきとどりによくに心をうたれた人びとに助けられ、水路を
 つくりあげました。水路は久右衛門の生まれた村の名前にちなみ、福島
 江と名づけられました。

こうして生まれた福島江は、田んぼに水を送り、米作りを支えてきました。
 両岸に植えられた桜なみ木とともに、今も長岡の大切なたから物
 です。
 (文書資料室 林 朋子)



画：おんだちかこ

みんなの声

としょかんくん144号読者アンケートの中から、みなさんの声をしょうかいします。

『としょかんくん』144号の感想をひとつ！

- ★図書館にはおもしろい本がありそうなので、ぜひ行ってみたいです。(川崎小3年 そんごくうさん)
- ★今まではあまり本を読まなかったけど、「としょかんくん144号」を見たら本が好きになりました。(中島小3年 ももちゃんさん)

あなたの好きな本、おもしろかった本を教えてね！

- ★『りんごかもしれない』ヨシタケ シンスケ/作 ブロンズ新社 (絵本ヨ)
男の子が、リンゴを何かちがうものかもしれないと思うところがおもしろかったです。(宮本小3年 ミスターれおさん)
- ★『ペニーの日記読んじゃだめ』ロビン・クライン/作 安藤 紀子/訳 偕成社 (933ク)
お年寄りなんてきらい！と言っていたペニーが、ベタニーおばあちゃんの81年の重みに気づくいいお話だと思えます。(越路小3年 ピッピーさん)

※()の中の数字やカタカナは、図書館での本の場所をあらわしています。

☆イラストコーナー☆ すてきなイラストをどうもありがとう！



かみ おぐにしょう ねん
上小国小3年 K. Sさん

かわさきしょう ねん
川崎小3年 あずきさん

しんぐみしょう ねん
新組小3年 みづちゃんさん

としょかんくんクイズの答え Q1 : ① Q2 : ① Q3 : ②

平成28年1月1日 発行

編集・発行：長岡市立中央図書館

印刷：北越印刷(株)

住所：長岡市学校町1丁目2番2号 電話：0258 (32) 0658

ホームページ：http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp メールアドレス：lib@city.nagaoka.niigata.jp